

第4回滋賀県総合教育会議 会議録

1 日時

平成28年9月7日（水）15:00～17:00

2 場所

滋賀県庁東館7階大会議室

3 出席者

三日月知事、青木教育長、藤田委員、河上委員、佐藤委員、宇野委員、土井委員

【ゲスト】近江八幡市立八幡小学校長 三上 昌男 氏

近江八幡市立八幡小学校支援地域本部地域コーディネーター 森 シゲミ 氏

草津市教育委員会教育長 川那邊 正 氏

草津市立草津第二小学校地域コーディネーター 平井 規恵 氏

【事務局】西川健康医療福祉部理事、水上教育次長、岩谷教育次長、浅見管理監、望月教育総務課長、河井企画室長、森特別支援教育室長、辻本教職員課長、板倉健康福利室長、檀原高校教育課長、西嶋幼小中教育課長、奥村生徒指導・いじめ対策支援室長、藤堂人権教育課長、大西生涯学習課長、太田文化財保護課長、久保田私学・大学振興課長、（生涯学習課）中川参事

4 開会

青木教育長

定刻となりましたので、ただ今から「第4回滋賀県総合教育会議」を開催いたします。

今回は、「学校と地域の連携・協働」をテーマとして、社会全体で子どもを育てるという視点から、学校と地域が支え合う仕組みづくりについて、県内の実践事例を伺いながら、議論を行ってまいります。

本日は、県内で学校と地域が連携・協働する取組を活発にされている地域のうち、近江八幡市立八幡小学校と草津市の取組について取り上げたいと考えております。その上で、学校での取組の現状や課題と、市全体からみた事業の評価というそれぞれ異なる観点から発表をしていただくため、本日はお忙しい中、学校と市の教育委員会からそれぞれご出席いただいております。

では、開会に当たりまして、知事から一言ご挨拶をお願いいたします。

知事

皆さんこんにちは。残暑厳しき折、それぞれお忙しいところ、教委員の皆様方、またゲストの皆様方、ならびに傍聴いただく皆様方、さらには教育委員会の皆様方、今年度第4回の滋賀県総合教育会議にご出席いただきましてありがとうございます。せっかくの機会ですので、数点申し上げたいと思います。

1点目ですが、個人的なことで恐縮ですが、私は知事になってから、思いついたことや聞いたこと、やらなければならないこと、議会でご指摘いただいたことなどを、ずっとノートに書き留めております。このノートというのが、キャンパスノートの100枚綴りじゃないとだめなんです。それが、今日から新しいノートで13冊目ということになりました。1年前はどうやったかなとか、前の会議はどうやったかなと、総合教育会議のメモもずっとつけております。このキャンパスノートは、滋賀県の愛荘町で年間約1億冊作られていまして、滋賀県はノートの産地でもあります。今、コクヨさんはこういうノートだけでなく、「びわこ文具」ということで、琵琶湖のヨシを使った文房具も

作っていただき、琵琶湖のこと、滋賀のことをPRしていただいております。この会場でもお使いの方がいらっしゃいますし、県庁でも「びわこ文具」を使っておられる方は多いかもしれませんが、ぜひ、みんなで広めていけたらと思います。

2点目は、今日からパラリンピックが始まります。みんなで応援したいと思いますし、この経験を、ぜひ4年後の東京オリンピック・パラリンピック、さらには8年後の滋賀県での国体・全国障害者スポーツ大会につなげていきたいと思っています。4年後、8年後に活躍するのは、今、小学生、中学生、高校生のアスリート達がメインになってくるであろうことを思えば、どれだけ学校の教室や運動場等で、先生と感動を共有できるかが大事になってくるでしょうし、積極的な情報提供やディスカッションを展開できればと考えています。

3点目は、9月ということで2学期が始まりました。学校等では、この夏の思い出は何ですかと、先生方と子どもたちが話されていると思いますが、もし私に問われれば、この夏の一番の思い出は、ビワイチ、琵琶湖一周サイクリングを体験したことです。これは一生忘れることができないと思います。210キロを約20名の仲間と共に走りました。8月14日、15日、非常に暑い日で、途中でリタイアすることも想定していたのですが、琵琶湖一周を回りきることができました。すごい自信になりました。また、すごく感動しました。ぜひこれを、より多くの方に体験、共有していただけるように、道路整備や案内表示を改善し、安全に楽しめる環境を整えていきたいと思っています。

最後に、アメリカに出張する機会をいただきまして、スタンフォード大学に伺って、ディースクールという所に行ってきました。これはドイツのSAP社が作ったスクールなのですが、デザインシンキングというものを世界に広めようという学校です。文理融合で、ものの考え方、見方から変えていこうということを志向するスクールとのことです。そこの方々がおっしゃっていたことで、非常に良いと、教育に通じると感じた、3つの要素があります。一つは、経験に基づく直観、インフォームド・インチュウション。二つめは、建設的な失敗、コンストラクティブ・フェイル。そして、三つめ、最も大事なことは、想

像力に対する自信、クリエイティブ・コンフィデンス。これを、いかに持ってもらうか、持たせるのか、持つのかということが大事であり、こんなことをしたらどうかとアイデアを出し合ったり、また作ったりすることが大切なんだとおっしゃっていました。このことは教育行政にも通じることではないかと思っております、ぜひ失敗を恐れず、みなさんの建設的なアイデアを出し合えるような、そういう総合教育会議にしていければと思います。

昨年度から実施し、私も毎回出席しておりますこの総合教育会議は、今年度4回目、昨年度から数えて10回目になりました。今年度の5回目、6回目で、これまでの振り返りとまとめをさせていただき、来年度の施策や、少し長期的な視野で滋賀県の教育をどう作っていくのかということを取りまとめ、また、皆さんに問うてまいりたいと考えております。ぜひ皆様のご参画、ご協力をお願い申し上げます。冒頭少し長くなりましたが、私からの挨拶とさせていただきます。

青木教育長 ありがとうございます。それでは、早速ですが、本日お招きしているゲストをご紹介します。

近江八幡市立八幡小学校長、三上昌男様です。

三上校長 よろしくお願ひします。

青木教育長 八幡小学校支援地域本部地域コーディネーター、森シゲミ様です。

森 氏 森です。よろしくお願ひします。

青木教育長 草津市教育委員会教育長、川那邊正様です。

川那邊教育長 よろしくお願ひします。

青木教育長 草津市立草津第二小学校地域コーディネーター、平井規恵様です。

平 井 氏 よろしく申し上げます。

青 木 教 育 長 本日の会議では、はじめに八幡小学校における学校支援地域本部の取組を発表していただき、次に草津市における地域協働合校の取組を発表していただきます。その後、意見交換を行いたいと考えておりますのでよろしくお願いします。

それでは、まず八幡小学校での取組について発表していただきますが、改めてゲストのご紹介をさせていただきます。

三上校長先生は八幡小学校の校長先生として日々学校現場で子どもたちと向き合い先生方を指導される傍ら、本県の社会教育委員としてもご活躍いただいております。また、森様は八幡小学校に学校支援地域本部が導入された当初から地域コーディネーターとして学校と地域との連絡、調整を担っておられます。

それでは、三上校長先生、森様、ご発表よろしくお願いします。

三 上 校 長 ただいま紹介いただきました八幡小学校の校長の三上でございます。本校の取組を紹介させていただきます。どうぞよろしくお願いいたしますします。

森 氏 同じく、八幡小学校の地域コーディネーターの森です。よろしくお願いいたしますします。

三 上 校 長 それでは早速ですが、スライドを見ていただきながらお話をさせていただきます。最初に本校の概要と特色ある取組を少し紹介させていただいて、学校支援地域本部事業の具体的な取組について、コーディネーターの方からもお話をさせていただきます。

八幡小学校ですが、明治6年に東学校、西学校という形で開設されてから、本年度で143年目になります、現在は通常学級が25、特別支援学級が4、合計29学級で、全校の児童数が819名です。教育目標は「夢を持ち、仲良く元気で頑張る子ども」、という目指す子ども像を掲げながら、職員一体となって、また地域と連携しながら取り組んで

いるところでございます。本校区は、かつて豊臣秀次が開いた城下町であり、近江商人発祥の地としても有名です。地場産業としては、八幡靴、八幡瓦、竹細工、数珠などが製造されております。特産物としては、近江牛、赤こんにゃく、丁字麩、和洋菓子などが盛んに販売されています。伝統的な火祭りとして左義長まつり、八幡まつりが有名です。そういう地域だけに、子どもたちの学習にとっては、教材の宝庫として私たちは考え、学習づくりを行っているところです。この写真は 140 周年の記念式典の様子ですが、この真ん中に写っている子どもたちは、本校区で活動されている八幡小学校の子どもたちだけの江州音頭の会です。地域のいろいろな場で発表してくれています。日常的な生活の中で、挨拶、安全、後始末、3つの「あ」を大切にしようということを子どもたちに話しています。そのことに呼応してと言いますか、地域の方でも安心・安全なまちづくりを学区あげて取り組んでいただいています。1つには、挨拶の輪を広げるオアシス運動、また地域の子どもは地域で守る八幡学区子ども見守り隊、八幡学区子ども見守り隊というのは、もともとは学校からお願いしてスクールガードという制度がございますけれども、もう 10 年以上たちますが、長い間やっていただいた方が引退される中で、見守る方を増やしてほしいという要望に地域が応えてくださって、まちづくり協議会で大きく学区全体に呼びかけていただいて、また、まちづくり協議会と連携しながら組織を再編してくださいました。昨年度から見守り隊として 100 名を超える隊員の方が子どもたちにかかわってくださっています。

本年度本校の経営として 3つの重点を掲げております。1つは人権教育・道徳教育の充実、2つ目にはふるさと学習の推進、3つ目には学ぶ力の向上です。人権教育・道徳教育については、歴史があり、校内研究でずっと取り組んでいるところがございます。ふるさと学習については、先ほど申し上げましたような、地域を取り上げた学習を各学年で取り組んでおります。また学ぶ力の向上につきましては、県教委の指定をいただきながら、人材をいただいた上で、豊かな学びをつくっていかう、確かな学びをつくっていかうということで、学習・生活習慣の育成と言語活動の充実を目指して授業改善にも取り組んでい

るところでございます。こちらの写真は八幡堀の学習の様子です。4年生で取り組んでいるところです。

特色ある学習として、地域の方と連携しながら取り組んでいることがいくつかございます。命の学習では、助産師さんに来ていただいたり、保護者の方に来ていただいたりということで学習を行っています。また健康な体づくりにつきましては、校医の先生を招いての授業を毎年行っています。校医の先生の積極的な子どもたちへの関わりもいただきながら、学びの場をつくっております。また、これも長い取組をしていますが、ようこそ先輩ということで、キャリア教育の取組として各方面で活躍されている卒業生の方を招いて、お話を聞く場を作っています。この写真の左上は、宝塚歌劇団の方です。また地域の環境を守る会を作っている西野さんにも来ていただきました。また、古い地域でもありますし、歴史の薫るところはたくさんございますが、そのような地域の歴史や文化に体験的に触れる学習づくりを大事にしています。古い商家の街並み見学であるとか、地元の伝統野菜北之庄菜の栽培活動などにも取り組んでいます。

学校が従来からいろいろゲストティーチャーをお願いして来ていただいている部分はございますが、学校支援地域本部事業がスタートして、本校は今年で5年目になるわけですがけれども、地域との連携を深め、子どもたちの豊かな学びをつくっていく上で、この事業は役立っていると考えています。また、本校としては、地域コーディネーターの方にきめ細かく支援をいただきながら、地域のボランティアの方と連絡をとっていただき、調整を行い、学校のいろいろなニーズにも応えていただいているところです。大きく4つの狙いがあるかなと思っています。教育活動の充実と地域の教育力の向上を図ること、子どもが地域の大人とふれあい学ぶこと、地域の人が学んだ成果や経験を生かす場をつくること、教員が子どもと向き合う時間の拡充を目指すことです。それでは具体的な取組を地域コーディネーターの森さんからお話してもらいます。

森 氏

では、具体的な取組を紹介させていただきます。まずボランティア

の人材確保ですけれども、まず自治会の回覧を通しまして地域住民の方への呼びかけ、それから PTA にも呼びかけております。またコーディネーターの方から学校からの依頼に応じた方を呼びかけて来ていただいております。その 3 つの方法で人材確保をしています。5 年目に今年なるのですけれども、保護者、地域住民、学生あわせて約 130 名の登録者がございます。次に、ボランティアで実際にやっていることを紹介いたします。環境整備、絵本の読み聞かせ、学習支援、児童引率補助、クラブ活動支援、栽培活動支援というふうに分けてみていただきたいと思います。

まず環境整備ですけれども、活動の中身をいくつか分けさせていただきました。写真を見ていただいたら一目瞭然なのですけれども、花壇の整備、給食台の上に置くカバー作成、樹木の剪定、八幡小学校は大変立派な樹木がございまして、その木々の剪定をボランティアさんをお願いしております。図書事務、左の下ですけれども、一週間に一回必ず 2 時間来てくださいます、図書の本の整理とか、傷んだ本の補修とか、図書室の飾りつけとかをしていただいております。それから、生け花を一週間ごとに生けかえくださっている方がおられます。次にテントの設営ですけれども、運動会用のテントがうちの学校は大変大きいので 20 張りほど設営しなければなりませんので、それのお手伝いに来ていただいております。ゴキブリ団子ですけれども夏休み前につくっていただきまして、夏休み中にゴキブリの駆除をしようということで、お願いしております。花の植え替え、太鼓の台。和太鼓を体育館の中で使う時に自由に動かせるように、下に動くキャスターを付けたものを、これは買うと大変高価ですので、大工さんをお願いして、作っていただきました。

次に、絵本の読み聞かせ。5 年前に、1 年生の子どもを対象に、このとき教員が朝自習の時には打合せをしております、子どもが自習という形になるということで始めてくださったのが、読み聞かせの始まりで、今年で 5 年目になりまして、今は 1 年生から 5 年生まで、毎週火曜日の朝 10 分間、読み聞かせをしていただいております。これは学校の PTA の読書クラブさんを中心に、一般の地域住民の方もまぜて、

今では25名の協力者がございまして、いろいろな本を読んでいただいております。それで、今年はこのような活動がベースになって、どのクラスも、読み聞かせのないクラスも、朝の読書タイムということで、始まりました。

続いて、学習支援ですけれども、そこにあります、縫い物。初めての裁縫、あるいはミシンの学習の時に、クラスにサポーター的にたくさんボランティアさんに入っていただいております。外国語の活動とか、水泳も3年生なんかは、小プールから大プールへ初めて入りますので、そのところを補っていただいています。次に、竹馬遊びとか、紙飛行機作りとか、合唱の伴奏までしていただいています。調理とありますけれども、次に出てきます、おでんだとか、栽培して収穫した野菜を食べるという、最後にいただくという活動を、特に生活科の中とかで、1年2年がされるのですけれども、そうするとガスコンロを使うことをまだ習っておりませんので、そのへんのサポートをボランティアさんをお願いしているというようなことになっております。それから、組体操の補助は学生ボランティアさんにしていただいています。つづいて、絵手紙だとか、おでんづくり、七輪での火おこしとか、オカリナの演奏とか、いろいろございます。

つづきまして、児童引率では、校区めぐりとか、たくさん各学年にあるのですけれども、そのときの引率を担当だけでは安全面で心配なので、来ていただいております。4年のヴォーリズ学習については、引率兼説明ということで、近江八幡は観光ボランティアさんが大変たくさんいてくださいますが、観光ボランティアさんが学校の方にも来てくださって、力を貸していただいております。

クラブ活動はそれぞれ専門的なものをお持ちの方に来ていただいております。卓球だとか、日本伝統文化クラブということでお茶、お花、お琴などを指導していただいております。

栽培活動支援ですけれども、1年から5年、ほとんどの学年で栽培活動が入っております。これは、土を耕すところから栽培の方法とか維持管理とか、そのへんのところが大変難しくて、教員だけではなかなかうまく作物が実らせることができないので、それぞれボランティ

アさんにお手伝いいただき、おいしい野菜ができるようにしております。特に4年生のひょうたんづくり、へちまの年もあるのですが、この棚なんかは、教員が建てたのでは、大体夏から秋にかけて台風でひっくりかえるのですが、そうならないようにボランティアさんに頼んで、しっかりとした棚を作っていただいております。先ほど紹介のありました北乃庄菜作りも、またこの9月、種まきをして、これから秋に向けて、育てていきます。

つづきまして、この事業を多くの方、保護者や地域の方に知ってもらうために、いろいろ発信をしております。一つは学校だより。これは教頭先生が作ってくださる学校だよりの中で、活動を紹介してもらっているというものです。校内掲示もしております。それから、ボランティアニュースも発行しています。公民館に掲示もしていただいています。最後にはまとめということで、自治会に回覧をして、次の年のボランティア募集もしていくというような形ですすめております。

それからボランティア同士の交流ということもこの事業のねらいの大事な部分ですので、3点やっております。3月にはボランティアの集いということで、その年の反省と次年度への方向付けをしていただいています。ボランティアルームも設置していただきました。そこで相談をしたり、休憩をとってもらったり、ボランティアさん同士が情報交換をしてもらったり、という具合に使っております。運動会ではボランティア席を設けまして、ボランティアさんを招待しております。

次に、それぞれに得られた効果を申し上げます。学校としては、授業内容が充実する。専門的なことを教えてもらえる。手伝ってもらえた分、時間ができ、子どもと向き合える。学校を理解してもらえる。子どもは、わからないことがすぐに聞ける。優しく教えてもらえてほめてもらえる。地域の名人のすごさに触れることができる。地域の大人と知り合いになれる。自然と挨拶ができる。ボランティアさんにとっては、子どもと過ごし、元気になれる。ボランティア同士の付き合いや情報交換ができる。自分の持っている得意なことを発揮できる。子どもの上達した姿が見られる。以上のような効果が得られたと思います。

三上校長

最後に、今後の課題としていくつか挙げさせていただきました。一つは、教員やコーディネーターの意識ですけれども、ボランティアさんとともに、どんな子どもを育てるのかということをしかりと持ちながら関わっていくということ。単にやってほしいことをお願いするだけではないだろうというふうに考えています。地域の人・もの・こととの関わりから学ぶということで、地域は学校の宝というふうな認識で取り組んでいきたいと思っています。

ボランティアさんの意識としては、学校を核として地域の子どもを教員と協力して育てているんだという、そんな思いになっていただきたいなと思っています。子どもは地域に愛着を持って育ち、地域の担い手として成長することを期待されていると思います。

また、ボランティアの確保、学区の多様なニーズに応えるための人材発掘というのは、これも大変な仕事ですが、今現在、地域コーディネーターの方が、地域とうまく連携をとっていただいて、応えていただいています。

学校支援地域本部ということで考えた場合には、やはり子どもの学びを豊かにすることが大きな願いでございます。地域のよさを知って、郷土に誇りを持てる子どもを育てたいと、そういうようなことを目指しながら、この事業がこれからもますます充実して、継続していくことを大事にしたいと思っています。また、学校が抱えている課題を、地域や家庭と共有しながら、つながりを意識して、地域ぐるみで子どもを育てる。そんな気運を高めていけたらなというふうに思っています。大変長くなってしまいました。ご清聴ありがとうございました。

青木教育長

ありがとうございました。三上校長先生と森様のご説明に対するご質問やご意見は後ほど時間を設けておりますので、その時にお願いいたします。

それでは次に、草津市地域協働合校の取組について発表させていただきます。ゲストをご紹介します。川那邊教育長は小学校教諭を経て、県の教育委員会にも長く勤めていただき、草津市教育委員会事務

局教育部理事や草津小学校の校長を歴任され、平成 26 年度から市の教育長を務めておられます。また、平井様は草津市立草津第二小学校の P T A 会長を務められ、現在は、地域コーディネーターとして、学校の取組を内外に発信されるなど、精力的に活動されています。

それでは、川那邊教育長、平井様、ご発表よろしく申し上げます。

川那邊教育長

草津市教育委員会教育長の川那邊でございます。本日は、県総合教育会議という貴重な場にお呼びいただきありがとうございます。また、平素は本市の教育の推進にご理解を賜っておりますことにお礼を申し上げます。今回は「学校と地域の連携協働」というテーマで、本市の地域協働合校について、これは平成 10 年度から始まったものですが、その取組を踏まえて、ご報告をさせていただきます。

まず、地域協働合校についてですが、この「合」というのは、学校と地域を合わせた「合」という字を使っています。学校と家庭と地域がそれぞれの教育機能を発揮しながら、大人と子どもが学びあって、人づくり、地域づくりを進めていこうとするものです。地域協働合校の地域というのは、校区を単位とした生活の範囲を指しています。協働と申しますのは、子どもと大人が知恵を出し合い、協力して活動するということです。合校ですが、社会の変化に対応するために学び合う地域学習社会ということです。草津市では第 2 期教育振興基本計画を策定し、実行しておりますが、そこで提唱しております共育ちであり、地域が支援する学校づくり、地域で子どもが育つまちづくり、これを理念としております。こうした理念のもと、子どもと大人が協働している姿を見ていただきたいのですが、例えば、学習支援、授業支援として、市民センターでの自主教室の方々が講師となって、何人かの大人たちが子どもたちに指導していただいている様子があります。水墨画教室であります。水墨画というのは学校の先生ではなかなか指導が難しいところがありますので。それから、地域での清掃活動。中学生の地域活動です。そして、草津は全体的にあいさつ運動が非常に盛んで、多くの方があいさつと共に子どもを迎えてくださる姿が見えます。放課後の見守り、安全支援も行っておりまして、花植

え活動、これは環境整備ですが、これも草津はどの学校に行っても花がきれい、校舎がきれいということが言えるのではないかなと思います。これも地域の人々の力です。それぞれの地域、学校・園のニーズや特色に応じていろいろな活動が行われています。一つ加えるとしますと、草津市教育委員会は読書に力を入れております。どの学校の図書室も環境整備は素晴らしいものになっています。これは読書ボランティアの方のお力によるものです。読み聞かせも行っています。そして、草津市独自で学校司書というものを配置しておりますが、学校司書とボランティアと先生が話し合いながら、子どもたちにより良い読書環境、読書活動を提供していくということも本市の特徴であると考えております。この他、どの地域でも夏まつりやイベントが多く行われています。

続きまして、地域コーディネーターの位置づけについてですが、地域協働合校は、事業が始まって18年にもなりますので、市民の認知度も高く、誰もが知っているというものになっております。しかし、マンネリ化は否めない状況でして、例えば、地域からの協力者や事業内容は、個別化、固定化される傾向も見られます。また、これからの教育を展望する時に、地域の社会教育との連携というのも欠かせない観点であります。そのため、地域にある教育資源を教育課程に位置づけてうまく活用することや、校長のビジョンを具現化した、地域に信頼される学校づくりを進めることは、学校経営上、大変重要であると考えております。そういうこともあり、今後、学校と地域の連携の在り方について、さらに推進、充実していくという観点から、地域コーディネーターを位置付けたわけです。そこで、これまでの取組を、支援から連携・協働へ、個別から総合へと発展するため、その原動力のひとつとして、国、県にお世話になりまして、昨年からは学校支援地域本部事業の要となる地域コーディネーターを小学校7校に配置しました。また、今年度も7校に配置しましたので、これで市内全小学校に配置したことになります。さらには、地域の皆さんの参画や支援をいただき、特色ある学校づくり、あるいはさらに先の方角として、学校を核とした地域づくりを目指しておりまして、そのために「コミュニ

ティ・スクールくさつ」を7小学校に、今年から導入しました。地域コーディネーターも運営委員や事務局として活躍いただいております。ここからは地域コーディネーターの関わりによる実践事例をいくつか紹介します。

まずは郷土の伝統文化を生かした学習を進めている常盤小学校の事例です。常盤小学校は琵琶湖に近く、歴史や自然に恵まれた地域です。ここで大切にしないといけない教育は郷土を大切にする教育です。これは学校の願いでもあり、地域の願いでもあります。そこで、学校と地域コーディネーターが学習のねらいや、それに則した計画的な事業を年度当初に話し合い実践に移しています。例えば、地域の特色ある産業である淡水真珠の学習をしているところです。琵琶パール体験です。地域に伝承されている民話のお話し会、また田植えと稲刈りの間に、水田の生態系に関連する魚のゆりかご水田体験学習や、親子で案山子づくりを行うなど、連続的、計画的な取組として実施しています。

続きまして、草津駅に近く、高層マンションが多くありますが、その草津第二小学校の実践事例になりますが、ここからは第二小学校地域コーディネーターとして御活躍をいただいております、平井則恵さんから話をいただきます。

平井氏

では、私の方から草津第二小学校の取組についてお話しさせていただきます。草津第二小学校地域コーディネーターの平井です。先ほど教育長がおっしゃったんですが、草津第二小学校はJR草津駅を挟んで西と東にありまして、児童の約9割がマンション住まいという学校です。常盤小学校と対照的なのですが、街中の小学校です。

私は、学校長から依頼を受けまして、この地域コーディネーターという役割を昨年度から務めさせていただいています。小学校のPTA会長やまちづくり協議会の役員を経験していることから、子どもたちの豊かな学びと地域とのつながりづくりを学校と地域の両側面から支援できればということで、取り組んでおります。私のほうからは、様々な連携を図りながら取り組んだ「米作りにチャレンジ」について説明します。

草津第二小学校では例年この事業に5年生が取り組んでいましたが、昨年度末に、学習用に提供いただいていた校内唯一の田んぼが無くなってしまいました。たまたま宅地化のため埋め立てられようとしている田んぼを4年生の子どもたちが見て、来年は私たちは田植えできないんですかと言って校長室を訪ねてきたそうです。その話を聞きまして、校長先生と相談しながら、何とかしたいという思いが、沸き立ちました。そこで、まずは、JA関係や農家をされている方に連絡して、田んぼを提供してもらいました。次に移動手段として、環境課に地域協働合校による環境学習の一環ということで、バスを申請し、1台確保できました。同時に、田んぼに関連する事前事後の環境学習も環境課の方から実施していただきました。そして、市で開催されている地域コーディネーター研修会等で知り合った他校の地域コーディネーターさんにもアドバイスをいただきながら実現することができました。今回提供いただいた田んぼは草津市のあおばな館というところがあるんですが、校区から離れてまして、一応保護者にもお声掛けはしたのですが、遠く離れた場所にも関わらず、自転車で参観に来られた保護者の方々もおられました。みなさん今年は田植えはできないかもと心配されていたそうですが、子どもたちの姿を見て、喜びもひとしおだったようです。その後の日常的な管理についてはJAさんをお願いしておりますが、子どもたちの活動として、この9月に稲刈りを予定しています。環境課さんにもお願いして、今度はバスを2台用意していただきました。市内には田んぼがたくさんあり、他校では当たり前の活動かもしれませんが、草津第二小学校にとっては様々な人の支援が結びついた貴重な学びの場となっております。来年度も同様に行えるかどうか不安な面もありますが、できる限り続けていきたいと考えております。続きまして、広報活動の充実ということで、地域協働合校事業全般の記者提供資料を1年間作成し、市へ提供しました。このことで、私自身も学校での取組を理解することができ、地域コーディネーターとしてやるべき業務も見えてきたと思います。記事となって周知されることで、第二小学校がより地域に身近なものになった気がします。私自身は、まちづくり協議会のメンバーとしても活動

しておりますので、地元における広報誌でもっと学校の活動をアピールし、ボランティアを呼びかける記事を盛り込んで、学校から地域へ広がるまちづくりを進めていければと考えております。私からは以上です。再び教育長にバトンを戻したいと思います。

川那邊教育長

それでは、その他の学校の実践を紹介させていただきます。

まず、志津南小学校ですが、立命館大学に近いところにあり大学との連携を有効に進めておりまして、大学施設を利用した学習や学生が学校に来るような体験講座などをどの学年も実施しております。資料の写真は、子どもたちの絵が大学の構内に展示されているものです。志津南小学校といえば立命館大学との連携が盛んな学校ということで、昨年度も大学からノーベル賞を受賞された先生の門下生にあたる方に来ていただきお話をしていただきニュースにもなりました。

南笠東小学校では、夏休みに、さまざまな地域公開講座をやっています。これも学校だけではなかなかできないので、質の高い環境学習を行うため、市役所の環境課と連携する中で、ご覧のように充実した学習が進められています。玉川中学校では、東日本大震災の後、生徒会を中心となって同じ校名を持つ、宮城県塩竈市立玉川中学校と交流が始まりました。地域の方の協力や支援のもと、生徒会が塩竈を訪問し2つの玉川中学校との交流が今も進んでおります。来年度は塩竈への修学旅行が実現することとなっています。また、これも素晴らしいことですが、両校をつなぐ曲「ひとつになる」が出来上がりました。これは素人が作ったわけではなく、地域の音楽家が宮城県の大学の先生と協力をして作られました。これも歌い継がれていますし、その歌がいろいろなコンサートで歌われるようになってきています。

ここからは、草津市教育委員会の取組について紹介します。まず、所管の生涯学習課が、これまでに集積した情報を整理して、地域コーディネーターへの発信に努めております。また、地域コーディネーター同士が情報交換を行えるよう、その連絡網として「地域コーディネット」というものを作り上げました。また、地域コーディネーターの資質向上と情報交流を目的とした地域コーディネーターの研修会や

「コミュニティ・スクールくさつ」との関連で、学校政策推進課と地域と学校の連携を考える研修会なども行っております。さらに、担当の方でもいろいろと努力してもらっていきまして、地域協働合校広報誌「協働通心」を毎月1回発行しております。見ていただく対象が、庁内の他課の方です。地域協働合校って知っていますかと書いてありますが、案外、庁内の方でもご存じない方がおられます。そのため、こういうお知らせをしながら連携協力を求めています。先ほどの環境課ですとか農林水産課の方に関わっていただいております。また、市役所内にもいろんな方がいらっしゃいますので、そういった方々を人材として活用していきたいと考えています。

地域の方が学校の活動に参加することについて、グラフに示したとおり、草津市の学校では地域の方が学校に積極的に参加していただいているという印象が強いです。

それから、教職員の負担についてですが、平成27年度に地域コーディネーターを導入した7校のうち、85.7%が負担軽減に結びついていると回答しました。1つの学校だけどちらともいえないと回答しておりますが、もう少し聞いたら話は変わってくるのかもしれませんが、今のところこういうデータが出ております。概ね教職員の負担軽減に結びついているというデータであります。

次に、成果についてお話しさせていただきます。まず児童生徒についてですが、地域での居場所になったり学習意欲の向上、さまざまな専門的なことを教えていただいたり、日頃のコミュニケーション能力の向上につながっています。また、保護者については、親子での学びの充実、親子で学ぶ機会が増えてきました。また、新たに草津に来られた方も多いですが、子どもを地域で育てられているという安心感も生まれています。地域の方では、支援ボランティアの皆さんにとっては、学校への愛着やボランティアとしてのやりがいや満足感にもつながっていますし、学校についてもよく理解していただけるようになりました。次に、学校についてですが、地域コーディネーターさんに支援をしていただくことによって、校長が目指す学校づくりへのよき理解者となっていただいております、頼もしい存在になっています。そうい

った中、学校の特色づくりが進められております。また、連携に関わる負担軽減も学校全体としては感じております。こうしたシステムをしっかりとした形でつなげていきたいと思ひますし、つなげそうだという手ごたえを成果として感じてひます。

最後に、課題についてですが、一つ目は、担当教員の事務量です。学校としては負担の軽減につながっており、校長先生も概ね負担の軽減につながっているというのですが、担当教員にスポットを当てると、なかなか大変ですという声が返ってきます。なぜかというひ、国、県の事業の指定を受けているので仕方がないのですが、書類を丁寧に作らなければならない。特に草津市の教員がそう感じるのは、地域協働合校の時ひ柔軟な予算の使い方ができたからです。例えば、以前は老人クラブにいくらというひができたのですが、しかし、今は老人クラブの10人にそれぞれいくらというひをしないといけなひ。10個ハンコをもらひにそれぞれの家に行くこともあります。しかし、担当教員からの声を聴ひて、市教委の方でマニュアルを作ったりしてひ、この負担については徐々に解消されるものと思ひてひ、私としては大きな問題とは思ひてひません。

二つ目に、校長のビジョンとリーダーシップ。これを私は強調したいのですが、特に、市教委の立場から強調したいと思ひます。校長には地域とともにある学校の長として、地域に対する期待と責任があります。校長先生には今も頑張っているひがいますが、校長として学校を良くする、学校を経営するといった考えだけではこれからの時代は通用しないだろうと考えてひます。つまり、地域の、市の社会教育と連携していく意欲と能力があるかどうかひ非常に大事になってきます。地域協働合校の推進、充実は、学校長のビジョンとやる気ひ左右されますので、さらに、草津市で目指しているコミュニティ・スクールくさつの実現を見据えた学校経営や、時代を見据えた今後の学校として取り組むべき課題などについての校長の識見、ビジョン、そして、実現へのリーダーシップひますます問われることになるだろうと思ひます。三つ目は、教育委員会と市長部局との連携です。これも徐々に進めてはひますが、教育委員会だけがやるという考えではなく、

いろいろな課と連携しながら草津の子どもを育てていくという観点が
必要で、総合教育会議でも地域協働合校をテーマに取り上げながら進
めているところです。

これからまだまだやるべきことはたくさんあると思っていますが、
これまでの実績を元に、校長が目指す特色ある学校づくり、学校を核
とした地域づくりを進めてまいりたいと思います。以上で、報告を終
わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

青木教育長

ありがとうございました。それでは、ここから意見交換に移りたい
と思います。ただ今ご発表いただきました八幡小学校地域支援本部と
草津市地域協働合校の取組について、ご意見やご質問はございませ
んか。

藤田委員

大変ありがとうございました。聞いていまして、素晴らしい取組を
されていることに敬意を表したいと思います。地域との連携あるいは
協働ということについて、お聞きしたいことがあります。

自分を振り返りまして、私自身、家庭と地域で育てられてきたとい
う気がいたします。その上で、学校へ行って、知識を獲得し、また、
学校の友人や学校外での友人という集団の中で自分も大きくなったよ
うに感じます。そういう意味では、地域と家庭で育てられたというこ
とをお聞きしながら、自分が子どもだった時代との差異について考え
ておりましたが、今の時代の中でもっとも重要なことをしていただい
ていると感じました。

コーディネーターという制度を両市ともうまく使われながら地域で
子どもを育てていらっしゃるということですが、コーディネーターと
一言で言っても、人によって、年齢も経験も全然違いますし、いろん
な方が地域におられて、必ずしもコーディネーターの方のレベルが一
定ではないと思うのですが、そのあたりの仕組みづくりなどはどのよ
うに対応されているのでしょうか。

また、ボランティアの方に入っていくにあたって、学校の教育
とどう連携させておられるのでしょうか。例えば、近江八幡市では、

地域の文化と組み合わせてさまざまな取組をしておられますが、マニュアルのようなものがない中で、どうしておられるのでしょうか。ボランティアに参加してくださる方は、とにかく地域の子どもたちのためにということで協力していただいていると思います。両市とも非常にうまくやっておられると感じましたが、そこには何かマニュアルのようなものがあるのでしょうか。それとも、自然になっているのでしょうか。

三日月知事

一口にボランティアといっても、様々なバックグラウンドを持った方がいて、例えば、八幡小学校では130名ほどいらっしゃるようですので、そんなに多くの方をまとめていくのは大変ではないですか。

森 氏

130名の登録者というのは、登録しますという形でお名前をいただいています。実際に野菜作りをお手伝いしていただくとなった場合は、学校がどういう方に来てほしいか、要請があつて、ボランティアに来ていただくということで、こちらから学校に押し付けることはありません。学校の教育の中で、今こういう人たちに来ていただいて、こういうことをしたいという前提があつて、ボランティアさんをお願いすることになります。その際に、登録者の中から、早い話私が選んでおります。野菜栽培で登録いただいている方から、もちろんその方の都合もありますので、各学校でばらつきがあるのではないかとありますが、近江八幡市全体でコーディネーターの研修を年に何回もされたりとか、コーディネーター同士の交流も、情報交換もしておりますので、私が入った1年目の時は、何をどこから手を付けていいかわからないということも多くありましたが、何回か顔を合わせていろいろ他校の実践を聞いていく中で、現在の形になっている。ただ、登録をいただいているけれども、実際になかなか学校にボランティアに入っていないケースもたくさんあります。

藤田委員

学校という教育のフィールドでは学べないことというのは、いっぱいあると思います。それをこういう形で、地域の中での協働とか連携

を通して、子どもたちが全く違う形で大きな学びを得ていると思います。昔であれば、半ば強制的に家のお手伝いをさせられて学んでいたのが、今はほとんどない。お手伝いから学んでいくことも子どもの時はいっぱいあって、私が子どもの時を思い出しても、家庭や地域で育てられてきたという感じがあります。それが今、こういう形に変わって、子どもたちが学んでいるというのは素晴らしいことだと思います。学校が要請をして、その要請に応えられる方に来ていただいて、それが人材交流として発展して、どんどん人の交流が広がっていけば、子どもたちの資産として大変大きなものになると思います。本当にいいことをしていただいていると思います。ありがとうございます。

河 上 委 員

事例発表をしていただきありがとうございました。川那邊教育長が先ほど、担当教諭の仕事量についておっしゃっておられましたが、学校の担当の先生とコーディネーターさん、ボランティアさんの三者の思いをしっかりと共有する時間をもたないと、しっかりとした良いものを作り上げることが難しいのではないかと思います。そういう時間の確保は十分取れているのでしょうか。

平 井 氏

草津第二小学校の例で言いますと、いろんな事業に地域の方が関わってくださっています。草津市は 18 年間、地域協働合校の土台があり、先生と地域の協力者の方との信頼関係みたいなものができていると感じています。そのため、あまり私が入っていなくても、先生と協力者の間で話ができる空気があるので、新たに入っていただく方を私がコーディネートして、学校側に紹介する場合でも、割とスムーズに、先生とその方で話し合っただけのこともあります。学校側の想いを伝える、また地域の方が教えたいなと思うことをつないでいける土壌が草津市の中ではあるのかなと思います。

河 上 委 員

コーディネーターさんが配置される前は、学校の担当の先生がコーディネーターさんの代わりをして、いろいろと地域の方と結びついたりしていっていったのですか。

川那邊教育長

先ほど常盤小学校の例をお話しして、真珠の体験をさせていただいているところをスライドでお見せしたのですが、以前のこの活動は学校でやり取りをしておりました。学校の先生がそこへ頼みに行って、日時などを交渉し、そして体験が実現していました。学校の先生が現地へ行って下調べをして、交渉というかなりの時間をかけていました。常盤のコーディネーターさんは地域の方ですので、真珠の学習については、「私が相談してくる」と、日時も設定してくださいました。すると新たな効果なのですが、今まで見せてもらえなかったところまで見せていただいたり、もっと深い学習を地域の方がさせてやりたいという風に、常盤の子供にはもっと深いところまでさせてやりたいということで実現しております。少なくとも、交渉の時間であるとか現地に何回か行くとか、負担はかなり少なくなっていると聞いております。

河上委員

私も総合型地域スポーツクラブの企画や運営に関わらせてもらっているのですが、本当にそういう活動も、地域のマンパワーによって助けられているという実感があります。特に子どもたちの事業に関しては、60歳以上とかお仕事をリタイアされたような方、60代、70代、80代の方が本当にいきいきと、いろいろ教えてくださって、保護者の方も教えてもらうことが多いです。私たちからするとその方たちにいっぱい与えてもらっていると思っているのですが、その方たちは自分たちの心と体の健康のために喜んでしているんだということをおっしゃってくださいます。そういう良い循環が生まれてきて、すごくありがたいと思っています。一方で、県内の他の地域における地域支援本部事業や、地域協働合校等の施策が根付いていない地域があれば、その学校の先生方に非常に負担がかかっているのではないかとも思います。平成27年度の実績として、滋賀県ではおよそ50%強ぐらいが、学校支援地域本部事業に取り組まれていると思いますが、それ以外の学校でも同じようなことはされていると思います。その場合、そういうことをするために、学校の先生に大変負担がかかっている状態なのかと思いますので、もっとこういう事業が根付いていって、教員の負

担の低減につながればいいと思います。

青木教育長

河上委員から事業の話がありましたので、生涯学習課長より学校支援地域本部事業について簡単に説明いただけますか。

生涯学習課長

それでは、学校支援地域本部の事業を簡単に説明させていただきます。すでに近江八幡市さん、草津市さんのお取組を発表いただいておりますので、重なる部分があるかもしれませんが、ご容赦いただきまして、説明させていただきます。

まず、学校支援地域本部は、地域住民等がボランティアとして、組織的に学校の教育活動を支援する仕組みづくりを推進するものでございます。それぞれの本部には、ご説明にもございましたように地域コーディネーターの配置をしまして、学校のニーズ、それから地域の力をマッチングすることにより、より効果的な学校支援を行おうという制度です。今ほど、実践事例の報告をいただきましたが、あのような形で、各本部とも、地域の実情に応じた、幅広い支援のお取組をいただいております。具体的なものにつきましては、授業への補助、あるいは自習等の支援、部活動の指導、図書の整理や読み聞かせ、花壇や樹木の整備等の校内環境整備、学校行事の運営支援等、多彩なプログラム、メニューがございますが、いずれも地域と学校が連携・協働した学校支援活動を行っていただいております。それから、実態についてですが、今年度、中核市である大津市を除いて、県内は9市町におきまして89本部を実施していただいております。実施校、これは学校数になりますが、小学校83校、中学校26校、幼稚園等21園となっており、123名の地域コーディネーターと地域コーディネーターをコーディネートするという形の統括コーディネーターが2名いらっしゃって、ご活動いただいております。一昨年度の数字ですけれども、県下全体で延べ4万人を超えるボランティアの方々に御支援をいただいております。成果等についてですが、平成27年度に当課が実施した調査では、本事業による子どもへの効果としては、「地域の方と顔見知りになった」「体験や経験の場が広がった」「自然や地域の文化・

歴史等への学びが深まった」等が挙げられております。学校・教職員への効果としては「開かれた学校づくりに繋がった」「地域住民の方との相互理解が深まった」「きめ細やかな授業づくりに繋がった」「子どもと向き合う時間の確保につながった」ということが挙げられておりました。また、地域コーディネーターの配置による効果としては、やはり「地域のボランティア人材の発掘が進んだ」ということが挙げられております。そのため、「コーディネーターさんにより、ボランティアや教職員との打合せが円滑に進めることができた」ということもお聞きしております。県内の実態につきましては、以上でございます。

青木教育長

ありがとうございます。佐藤委員、いかがでしょうか。

佐藤委員

ご発表ありがとうございました。地道な取組の一つひとつが形になって、123名のコーディネーターさんに、4万人のボランティアさんという、こんなに大きな事業になり、本当にこれだけのことをそれぞれの地域でやっていらっしゃるんだということを聞かせていただきました。まさしく滋賀のめざす教育のあり方というのはこういうことなのかなというふうに感じました。いわゆる学力調査的な数値化されたものと、この取組の相関というのは、なかなか一言では言えないのかもしれませんが、どちらが良い、悪いではなく、やはり滋賀らしい子どもたちの、こうありたいという姿がここにあるのではないかなと思いました。キーワードは人ということだと思うのですが、教育委員会の方、学校の先生方、コーディネーターの方、ボランティアの方など、様々な人たちの思いややる気、そのベクトルが同じ方向を向いていると感じました。滋賀県は滋賀県らしく、こういう町にしたいということをお首長の方が思われて、それを市民、県民が共有しながら、PTAや地域が一緒になって子どもたちをどう育てていくのか。そういうことをしっかりと語れるように、知事を筆頭にみんなで思いを共有して、メディアも活用しながら、いろいろな人がいろいろな意見を出し合いながら、関わっていける、つながっていける、そういう滋賀県であり

たいということを改めて思いました。

昨年度、福井県に視察に行った時に、先生方のご説明の中で、昔からこうなんで、風土ですから、ということをおっしゃっていました。それで、先ほど八幡小学校のご発表でも草津市のご発表でも、昔からそうなんで、土台があったのでといったことをおっしゃっておられました。地域の在り方について、昔からそうだったのか、歴史的にどうなのかというところでそれぞれの先生方、教育長も含めて、お考えというか、ご意見がもしあれば教えていただけますでしょうか。

青木教育長 三上校長先生、いかがでしょうか。

三上校長 先ほどから話題になっていることと絡めて、少しだけお話しさせてください。かつて、人材バンクをということで、地域から、いろいろな得意なことをリストアップしていただいたものを学校にいただいたことがございました。ところが、うまく機能しませんでした。それは、一つには、そこに介在する人材がいなかったというのか、つなぎ役がいなかったということが大きかったと思います。それと同時に、本当に学校が今、求めている人材、役割を担ってくださる方ではなかったこともあったのかなと思います。その2つの理由から、うまく機能しなかったのだと思います。ですから、教師が学年の学習内容に合わせて、こんな人をとということをいろいろ人をつたって発掘し、それを何年生の学習にはこの方を呼んでいこうということを申し送りしながら、ゲストティーチャーとして来ていただいていた。そういう流れがございました。ところが、今回この地域本部事業になって、コーディネーターという存在が生まれました。しかも、近江八幡市もそうなんですけれども、各校園に1人ずつ配置いただいております。複数の学校配置ではなくて、一つの学校に1人ということで、その学校のために働いてくださっている。その学区の地域に通じてくださっている方です。本校も森さんに本当におんぶにだっこみたいなところもあるのですが、本当にきめ細かなつなぎ役をしていただいています。そのことによって、学校がこんなことまで頼んでいいのかなと思うところまで、

協力してあげようという人材を発掘してくださったり、今度はこういうことに困っているんだけどと言った時に、そういう人材を見つけてくださったりします。例えば、高学年でミシンの指導をしようという時に、あっちこっちで機械がいたんだりとか、糸がほつれたりとか、いろいろなことが起こってしまって、教員1人では全然学習が進まない。そんな時に、支援をしてくださる方が5人、6人と教室に入ってくださったことによって、子どもたちの思いが十分に達成されて、みるみる上達していく、そんな学びの姿があります。また、それを見てくださったボランティアの方も非常に喜んでくださっている。子どもも自信につながります。そういうような効果的なマッチングができるようになったことは、非常に大きいことだなと思っています。ただ、コーディネーターの方によってということを先ほど言われました通り、これは大きな課題であります。いつまでもわたしたちも森さんにおんぶにだっこではいけないところもあるわけですが、いずれ交代していただくような人材を、また見つけていかなければならないということもありますし、ボランティアの方も、いろいろな方が交代してくださる、そういうつながりを、学校として地域と共に取り組んでいけたらなと思います。

川那邊教育長

草津市では、平成10年から地域協働合校がありますので、かなり定着した形で、学校と地域の関係もよくなって、様々な事業が進められています。これは本市の強みであると思います。平成10年頃を見ますと、こういった理念が、当時、教育委員会で協議されて、そのあと、生涯学習課というところが、その仕事を担うようになったのですが、事業があって、それをやる課がしっかりあって、その担当となる方が割愛教員で来て、学校との連携ということでしたので、生涯学習に、しかも複数だったかなと思うのですが、そういう者が来て、そして学校と地域の連携をした。つまり行政的な面から言うと、やりたい事業、やらなければならない事業があったとき、やはり組織と人をどういうふうにしていくか。この問題はあると思います。ですから、今後、草津市においても、今の地域協働合校を、今、学校支援地域本部という

支援をいただいて、さらに充実に向かっているのですが、この後、どういうふうにしていくかというときには、やはりどこの課、どこがリーダーシップをとって、どれくらい予算をもって、どういうふうにしていくか、そこがやはり大事だというふうに思っておりまして、そこが大事であれば、持続可能な仕組みに、あるいは発展ということにつながるというふうに思っております。

青木教育長

ありがとうございます。今、コーディネーターの育成ですね、いつまでも頼ることはできないので、いかにそういう方々を育成していくのか。また、組織、人。これがしっかりしていないと、できないだろうなと。こんなご意見をいただきました。宇野委員、いかがでしょうか。

宇野委員

ご発表ありがとうございました。私は草津に住んでおりますので、大変心強く、お話を聞かせていただくと同時に、学校との連携というところでは市民としてお役に立てておりませんので、心苦しく、お話をお伺いいたしました。今日のご発表の中で、地域との連携・協働という点で、子どもさんたちが地域の生活を知る機会というのが大きなメリットの一つなのかなというようなことを思いながら聞かせていただいたのですが、昨今、日本小児科学会で言われている、現代の子どもさんたちの問題点として、リアリティがないというのが一つ言われています。リアリティというのは、これから社会に出て、生きていくという実感みたいなことで、これはたぶん生活していく中で自然と身についていくものですが、現実的な側面としてライフスキルといわれるもので総称されているかと思うのですが、ライフスキルがうまく定着しないと、自立は難しいと言われています。アカデミックスキル、ソーシャルスキル、ライフスキルの3つが子どもたちが身につける3つの代表的なスキルですが、その中でも特にライフスキルが大事であるというふうなことが言われ始めています。そういう中で、従来、アカデミックスキルは学校が、ライフスキルは地域や家庭が担っていたと思います。家庭では家業や家事手伝いの中で自然に身につけてい

ったのでしょうけれども、最近は家事がかなり簡素化というか便利になっていますから、ライフスキルを育む場所が貧弱になっているというのが、今の現状かと思います。それが引きこもりなどの社会的自立が難しい子どもさんたちが増えている原因の一つになっていると言われています。それで、実際にライフスキルが大事だということを保護者の方にお伝えするというのは、とても難しいというか、実際にやろうとしても時間がかかるんですね。お手つだい、後片付けにしても。そのあたりを保護者の方にどういう形で啓蒙していかれるかということをお聞きしたい。それともう1点、今日、草津市の第二小学校と常盤小学校を事例としてご報告いただきましたが、第二小学校は、草津の商店の方たちがいらして、比較的地域がありますし、常盤はもともと地域がしっかりした地区ですので、学校のある地域の特徴によって、地域との連携・協働がどういうところが難しいかとかいうあたりについて、感じておられることを川那邊教育長と三上校長先生にお聞かせいただければと思います。

青木教育長

ありがとうございます。まず、ライフスキル、社会に出て行く実感が、今の子どもたちに欠けているのではないかという、そんなお話をいただきました。それは、今、教えていただいたように、毎日の生活の中で本来育っていくものだけでも、その生活の方が変わっていて、非常に難しくなってきたというお話をいただきましたが、このあたり、コーディネーターのお二方、いかがですか。どういうふうにしていくのか、あるいはどういうふうに感じておられるのかでも結構ですけれども。森さん、いかがでしょうか。

森 氏

学校でいろんな時に、例えば、総合の時間や生活科の中で、野菜を栽培しそれを育て調理してといったことを、親の力は改善するか分からないんですが、子どもを通して親を教育するというのでしょうか。

平井氏

小学校5年生と中学校2年生の子どもがいるんですが、ライフスキルに関しては、家庭でもお手伝いとかあまりさせていませんが、駅前

の商店街に小学校3年生になるとお店体験で行かせていただきます。
お店の人もいろんなことをさせてくださって、お金を触って会計まで
してありがとうございましたと見送るまでのことをさせてくださるん
ですが、そういうことは家庭ではできないので、地域が子どもを育て
てくれているなと思いますし、保護者もそういう活動があることで、
遠くから子どもを見守ったりお客さんのふりをして入っていったりし
て、地域に子どもを育てていただいている姿を見せていただくことが
できます。

宇野委員 学校によって、地域との連携が難しい学校もあるかと思いますが、
こういった学校であれば連携しやすいといったものがあればお願いし
ます。

川那邊教育長 草津市はそれぞれの町内会のようなものがしっかりしておりまし
て、例えば草津第二小学校でもマンションがあれだけあるわけですか
ら、ほとんどの方は転入の方なんですね。しかし、地域がしっかりし
ていますので、まちづくり協議会にお話しするとすぐ話がまとまったり、
またまちづくり協議会もそういった人を入れようとしていますし、
活性化した地域だという印象があります。

平井氏 学区内にいろんな団体がありますが、子どもに目を向けてくださっ
ています。逆に、もっと保護者が入ってもいいかなと思うことはあり
ます。保護者ももっと地域の中に入っていった地域と連携するとい
うことが弱いかなと思うことはあります。

宇野委員 地域との連携はそこまで難しくない感じでしょうか。

川那邊教育長 全体的にはそうかと思いますが、ただその中にはいろんな方もおら
れて、入っていけないとか不安な方というのもおられるとは思いますが。

三上校長 ライフスキルということでお話させていただきますと、学校はいろ

んな体験の場というのを大事にしていまして、机上の学習だけでなく体を通して、本当に手とり足とり教えてもらうことで覚えていく体験、ものづくりなどを取り入れていますし、また野菜でしたら野菜を育てて収穫して調理して食べるという、そこまで食育として取り組んでいます。こういったこともライフスキルを高めていく教育の一環かなと思います。

また、学校としては、特に小学校の役割として、好ましい生活習慣、学習習慣を身に付けるということで、近江八幡市の場合は、「早寝・早起き・あさ・し・ど・う」という言い方で、「あさ」は挨拶、「し」は食事、「ど」は読書、「う」は運動ということで地域を挙げて取り組んでいるところです。こういった中で、生きる力を育んでいきたい。生きる力も滋賀県は結果としての学力ではなく学ぶ力が大事なんだとおっしゃってくださっていますので、これは非常に心強く思っております。豊かな心と健やかな体というような、体験を通して学んでいく力も自立に向けて育てていきたい、そんな思いを持っています。

土井委員

素晴らしい取組についてのお話を伺えてよかったと思います。私からはまずコーディネーターの平井さんと森さんへ2点質問があります。一つは、コーディネーターとしてどれぐらい活動時間を割いていたか。1日とか週何日とか、それぞれによると思うんですけども、どれぐらいの時間を割いてご尽力いただいているのか。もう一つは、実際にコーディネーターをされていて、今後こういう活動を強化し、広げていく時に、こういうことをしたらいいんじゃないか、こういうことが足りないのか、こういうことを加えていったらいい、改善していったらいいんじゃないかという点があればお聞かせいただきたいと思います。

次に、川那邊教育長への質問なんですが、これも2点あります。一つは、先ほどから生涯学習、社会教育と学校教育をどう結び付けるのかを考えないといけないとおっしゃっていましたが、私もそのとおりだと思います。まだ草津市は人口がある程度維持できていると思いますが、人口減が始まっている市町ですと、学校教育と生涯教育をどう

結び付けるのか。あるいは、学校という施設を生涯教育との関係でどう位置付けていくのかということが大きな問題となると思いますので、その点についてどういうビジョンをお持ちなのか。また、それを進めていく上でやはり体制が難しいと思います。施設管理等々を含めて難しい部分があるので、こういう点に留意が必要だというのがあればお聞かせいただきたい。2点目は、こういう取組を進めていく上で、小学校区で人材を発掘していくのも大事ですが、中学校区での規模、市町での規模、大きく言えば県の規模で、学校に關与していただく人材をどうプールして、それをどのようにして各地域につなげていくかという問題もあると思います。草津市は市単位でされているので、学校と学校の間、あるいは市とのつながりがどうなっているのか、そこをもう少しお聞かせいただければと思います。

最後に、三上校長先生にお伺いします。こういう活動を進めていくと、校長先生の役割がかなり変わってきて、地域に出られていろんなところで外交といいますか、渉外的な仕事をどんどんしなければならないと思います。その際、校長先生がどういう姿勢で臨まれるのか、そして、先ほどから問題になっている担当の先生方とコーディネーターとの役割分担を、どういう形で調整していくのがよいと考えておられるのかをお聞かせいただければと思います。

森 氏

近江八幡市では、時給いくらという形で報酬が出るようになっておりまして、年間400時間ちょっとという枠を設けておられます。その枠内で仕事をしてくださいということになっています。必要な時に学校やコミュニティセンターに出向いて行って活動をしています。必要ない時は出ませんし、特に夏休みなんかはほとんど出ておりません。そういう形で年間400時間ちょっとで調整しておりますし、ちょっと足りない時はサービスでやっています。それから、改善点ということでは、私としてはこちらから学校の教育にあればどう、これはどう、というふうに投げかけていくということは学校にとって負担になるかなと思うので、あくまでも学校のニーズにこたえるという形で考えておりまして、中には、こういう人がいるけどどうかということを言う

こともありますが、押し付けるということは絶対にしてはいけないなということを自分の経験からも思っています。今後についてですが、地域のボランティアさんに学校へ来ていただいているという形ですので、できれば、子どもも先生方も地域の方に出向いて行ってくださると、そうすると地域と学校との関係がより良くなって、連携も強化されるのではないかなと思います。その点では、子どもの方はコミュニティセンターが子ども体験活動といったことをやっておられて、参加する子どもの人数が増えておりますので嬉しく思っています。

平 井 氏

草津市は年間 200 時間で、その範囲で活動しています。ですので、たまたま出会って、雑談に近い形で話がまとまっていくこともあります。この時間の中でこの仕事を完成させたということはあまりないように思います。私の中で大事にしているのは、学校が何を求めているのかということが大切なので、先生方とのコミュニケーションをとって、学校で今子どもたちにこういうことを教えたい、伝えたいという想いを地域の方に発信して、それに合う方を呼び込むというのがもう一つの自分の役割だと思っています。なるべく職員室に足を運んだり、学校の先生と顔を合わせて話す時間を作るように心がけています。

今後の課題ですが、近江八幡市さんのお話を聴いていると本当に多くのボランティアさんを学校に呼び込んでおられるなと思ひまして、その部分はまだできていないところがあると思っています。私が地域コーディネーターになる前からずっと続けてくださっているボランティアの方はたくさんおられるんですけども、ずっと関わってくださっている方は多いので、そういう方たちからいろんなことを教えていただきながら、地域からもボランティアを呼び込む活動を続けていきたいと思っています。

川那邊教育長

まず、これからの学校を考えるうえでの意見になると思いますが、草津市の場合は人口が大きく減るというような予測はございませんので、今思っておりますのは地域の中の学校、学校を核とした地域、それをどういうふうに進めていくのか。いかにしっかりしたものにして

いくのかです。ですから、発表でも触れさせていただきましたが、コミュニティ・スクールくさつというのをさせていただいておまして、これは草津版ということでやらせていただいているのですが、校長のやりたい学校経営、地域のやりたい学校づくりについて話をし、特に校長が何をやりたいのかということをしつかり特色を出して提案して、地域の方、コミュニティで承認をしていただいて、その学校づくりに向かってみんなが応援してくださる、そんな体制を作りたいなと思っています。一つの例として、これはコミュニティ・スクールを作る前だったのですが、子どもたちのさまざまな課題がある中で、ある校長先生がうちの学校ではけん玉をやりたいということで、地域の人にいろいろと相談しながら進めようということになった。すると、地域の方からは、けん玉はどこどこのお金から出してやろうとか、地域の方が応援してやろうとか、そういうふうなことが自然発生的にありますので、そこをシステム化したようなコミュニティ・スクールにしていけたらと思っています。要は、地域の方が学校を応援してくれて、応援していただいていることがさらに地域を元気にするというようなことになったらいいと思います。

それともう一つ。ボランティアの方は、小学生にとっては地元の身近な方が一番いいと思います。学校でお世話になったボランティアの方が近所で挨拶をしてくださったり、声をかけてくださったりすることは子どもにとって非常に励みになります。それが中学校になると、専門的な方をお招きすることもありますのでその範囲は広がってもいいと思いますけども、学年の発達によってそれぞれの学校が考えられることですし、今も実現しておりますし、そういうことかなと思っています。以上です。

三 上 校 長

最初の説明の中で、本校の教育目標、「夢をもち、仲よく元気で頑張る子ども」を説明しました。色んな機会に、保護者の方や地域の方にそのことの解説も行っています。と同時に、夢をもち、仲よく元気で頑張る大人になっていきましょうねとお願いしています。PTA 活動についても、地域の色んな活動についてもそうです。まちづくり協議

会、学童体験活動、江州音頭の会、スポーツ少年団などの色んな地域の組織があります。そういった地域の子育てに関わる事業や組織に、ちょっとずつ顔を出しながら、日々のお礼や挨拶に行っています。学校評議会という組織があり、色んな地域の方に来ていただいて、学校評価を含めて年間3回、学校の取組を説明し、協力を求めています。この方たちは、地域の色んな所で活躍されており、私たちの学校の思いを受け止めて、地域の中で発言していただいています。どのように学校の事を理解されているのかなと気になるところですし、学校の評価というのは、機会を捉えて色んな声をお聞きしながら、自分たちの取組をみつめていきたいと思っており、そのリーダーシップをとるのが校長の役割だと理解しております。先ほどおっしゃった、学校の担当教員とコーディネーターの役割と言う部分では、本校の場合は、地域の組織に入って活動している教頭や一般教員もおりますし、その中で一緒にやるということを大事にしているところです。

青木教育長

ありがとうございます。その他にいかがですか。

藤田委員

コーディネーターの方を中心に、学校支援地域本部が、地域運営が形づいていると感じました。地域によって差があるかもしれませんが、地域の文化あるいは産業や工業、そして、地域で子どもを育てる時に大事にされている道徳心、世代を超えたつながりやふれあいなどを通じて、地域の人たちが学校地域支援本部等と連携されており、将来は明るいなと思って聞いておりました。将来、こういった取組をもっと機能させるために課題などがありましたら、お聞かせください。

三日月知事

せっかく来ていただいたので、行政や県に対する要望があればどうぞおっしゃってください。

川那邊教育長

一つの事を成し遂げるには、組織をしっかりしていかなければならないと思っています。ですから、今、学校に地域協働合校があって、地域でもそういった子どもたちの活動があり、両方がうまく関わって

います。それを一歩前進するためにコーディネーターを入れたんですが、次の段階では、もう少し市全体で動きを活発にするために、例えばの話ですが、生涯学習課の中に、もう少し専門的に扱うセクションを作って、そのセクションが市長部局と連携し、学校や地域とも連携しながら、アクティブに動けるような組織と働きを期待したいと思っています。

これからの学校を考える時に、時代と共に、課を超えた仕事がたくさん出てくると思いますので、それをどう整理しながら組織として位置付け、どう機能させていくかを考えていきたいと思っています。

三 上 校 長 基本的には、ふるさと教育の充実を、滋賀県として大事にしていただけだと思います。自分が生まれ育った所への愛着というのを、大事に育てていきたいと思っていますし、それがこういった学校支援地域本部事業の一つの成果でもあると思っています。行政的には新しいものがどんどん出てくるわけですがけれども、本当に大事なものを続けていくことについて、予算的な支援を含めて応援していただけたらありがたいと思っています。

森 氏 地域の方と接する中で、特に八幡地域ですが、学校のためなら、子どものためならと、沢山の方にご奉仕いただいています。その方々に、お茶一杯だすお金も無いのが心苦しく思っております。

三 日 月 知 事 事業の形態はどうなっているのですか。

生涯学習課長 国と県と市町で3分の1ずつの負担となっています。

三 日 月 知 事 年間どれぐらいの予算があるのですか。

生涯学習課長 県全体で約 4,000 万円の予算です。

三 日 月 知 事 適用市町は先ほどおっしゃった 9 市町ですか。

生涯学習課長 9市町です。

三日月知事 それ以外に、予算はもらっていないけれども、学校支援地域本部をやっておられる市町もあるのですか。

生涯学習課長 そういう市町もありますし、支援本部以外の取組を行っている市町もあります。

藤田委員 県と市町の全体のバランスの中で、せめてボランティアの方にお茶のペットボトルを出せるくらいの予算があるといいなと思います。

三日月知事 近江八幡市は奉仕の精神が強い地域という印象で、お茶なんかいらなとおっしゃる方が多いのかなとも思いますが、いかがですか。

森氏 要らないとおっしゃる方もいらっしゃいますが、中に入っているものとしては、お茶ぐらいは出したいと思います。

川那邊教育長 ボランティアの方は水筒を持ってきて活動してくださるんですね。学校の先生からすると、そういった方々にせめてお茶を出すぐらいはしたいというのは自然な気持ちなのかなと思います。

三日月知事 そういったお客さんが来られた場合の予算など、学校はどうされているのですか。

三上校長 公的な予算は使えないシステムになっているので、PTA費用などからできる範囲で購入していただいたりしています。

三日月知事 確認ですが、学校レベルの推進体制は、校長、先生、地域コーディネーター、そしてボランティアの方がいらっしゃって、地域コーディネーターは学校単位でだいたい1名おられるということでしょうか。

どういった経歴の方が多いのですか。

川那邊教育長

草津市は各小学校に1名で、経歴は様々です。

三上校長

近江八幡市は、幼、小、中、それぞれに1人で、経歴は様々です。

三日月知事

ありがとうございました。最後に、感想、決意を含めたお礼を申し上げます。

学びが育ちにつながる。それは子どもだけではなく、大人も一緒だと思います。そうすると、今日発表していただいた取組は、子どもにとって重要な機会になっているのはもちろんのこと、同時に、地域の方々の学校への関わりが、地域の方々の学び、ひいては育ちにつながっているのだろうと思います。

川那邊先生には、我が子も私自身もお世話になっていて、地域協働合校では我が子も参加させていただきました。そこでいろいろな関わりをもたせていただいて、ぜひこういう取組を全県でも広げていけたらいいなと思いながら、今日はお話を聞いていました。そのために必要な体制整備や組織整備、また必要な予算措置については教育委員会と連携し、また県だけでなく市町やいろいろなところと連携して取り組んでいきたいと思っています。

ご存じだと思いますが、学力テストと併せて実施している学習状況調査があり、これは県内全ての小学6年生と中学3年生を対象とした調査です。その中の「地域の行事に参加していますか？」という項目を見ると、本県の小学校では、毎年、全国平均より大体12%から15%くらい高く、中学校では6%から7%高くなっています。これはつまり、滋賀県の子どもたちは地域との関わりの中で学び育っている環境があるということだと思えるのです。ここは、ぜひこれからも滋賀県の強みとして大事にしたいし、もし、そうでない地域があるとすれば、そこにテコ入れをしたり、いろいろと困難がある家庭や地域を支援するような、そういう教育行政を作っていけたらいいと思っています。今日いただいた意見をしっかり参考にしながら、地域と一緒に取り組

む学校や学びづくりを進めていきたいと思いますので、今後ともご協力をお願い申し上げます。

青木教育長

長時間にわたりありがとうございました。本日のご発表やご意見をお聞きして、やはり子どもたちは学校だけでなく、家庭や地域が一緒になって育てていく必要があると、改めて思ったところです。

本日の会議では、非常に有意義なご意見をいただきました。知事の発言にもありましたように、できるだけ施策に活かしていきたいと思っておりますし、次回以降の総合教育会議につなげていきたいと思っております。それでは、第4回の滋賀県総合教育会議を閉会したいと思います。本当にどうもありがとうございました。

(終了)